

占いに求める未来

The Future Searched by the Fortune-telling

鈴木一馨

はじめに

- ① 若者と占いとの関係
- ② 調査の概況
- ③ 将来の明暗意識と占い

おわりに

【論文要旨】

本稿では、現在の日本に起っている「占いブーム」が何によって成立しているのかを、それを支えている10代後半から20代前半の世代に対するアンケート調査を以て分析することを目的とする。

占いの人間社会における存在意義はいくつかあるが、その第一の意義は未知の物事を推測することであり、それはすなわち「未知」により惹起する不安を「既知」化することによって解消することにある。その「未知」というのは人に不安を与える大きな要素であるが、時間の進む早さでしか生きることでできない人間にとって、未存在の時間である「未来」というのは不安の重要な要素となる。「人生80年時代」と謳われる現在の日本は、寿命が延びたのと同時に「未来」という不安をそれだけ抱えることも増やしたとすることができる。

特に、占いブームを支えている世代は、バブル崩壊後の不況の真只中で未来の想定をせざるをえない状況にあり、不安の材料には事欠かないように思われる。しかし、筆者が教鞭を執っている大学などで学生を対象として実際に調査をしてみると、具体像を想定できる未来としての自己の「将来」において、それを暗いものと想定する者はおよそ30%という率に留まり、70%近くが自己の将来を明るいものと考えている。このことが示す意味は、現在の占いブームが将来に対する切実な不安によって維持されているのではないということである。

ただし、単純にそう言いきってしまうのも問題があり、実際に占ってみた（もらった）場合に、その結果を信じる条件として、自己の将来に対して良い結果が宣言されたときにその占いを信じるという傾向が見られることから、自己の大問題としてあえて意識している不安とは別に、日常レベルでのちょっとした不安について、その解消を求めているとも見ることができるのである。

キーワード：占いブーム、未来、不安、人生、学生